

鮮やかに生垣彩るカナメモチの木

小 関 栄

5月新緑の季節にひときわ鮮やかな紅色の生垣があつた。カナメモチの木だ。(右の写真は光陽の里の工場の生垣、5/20撮影)当地では一般にアカメノキとかカナカシと云っている。



カナメモチはバラ科の小高木で、新芽は初々しい赤みを帯びて日に当たると実に美しい。次第に赤芽は緑となり、葉間にごく小さな黄白色の地味な花を付ける(左下の写真)。その花は蕎麦の花に似ているのでソバノキとも云う。夏になると、それが小さなサクランボよりもさらに小さな球に結実する。

名前の由来は、赤い新芽が特徴で、赤芽モチのアカメがカナメに訛って名付けられたようだが、古くからこの木が扇の要の骨に使われたので命名されたとも云われる。



東南アジアが原産で中国雲南地方に殊に多く、漢名は光葉石楠 guangye shinan。日本にも昔から各地にある。清少納言の枕草子に「そばのき 品無き心地すれど 花の木ども散りはてて 押しなべて緑になりたる中に 時も湧かず 濃き紅葉の艶めきて 思いも掛けぬ青葉の中より差し出でたる めずらし」と、そばのきこと、カナメカシの特徴がよく記述されている。

カナメモチ 赤芽艶めき 初夏の風 淡水

親子わらび刈り招待

里山倶楽部では3月25日から毎日のようにメンバー交代でわらび取りして掛川道の駅に出荷して、会費に充当してきました。それが一段落した4月13日、掛川市の子育て支援施設倉真の「パンダひろば」の親子40名を倉馬の里のわらび園に招待して、わらび狩りを楽しんでもらいました。3～4歳の子供と若い母親がほとんどでわらび刈りもはじめての人が多く、怪我等心配もありましたが、メンバーのエスコートで何事もなく、みんな大はしゃぎでした。昼食は落合荘提供のタケノコご飯、アトラクションは倶楽部メンバーもいる5名のオカリナ演奏グループによる童謡などの演奏で、みんなで合唱して楽しみました。

これからも地元との交流を進めていきたいと思います。(溝口記)

